



| | |
|-------------|---------|
| 平成31年3月1日現在 | |
| 総人口 | 12,780人 |
| 男 | 6,221人 |
| 女 | 6,559人 |
| 世帯数 | 5,303世帯 |
| 電話 | 47-0264 |
| 島内公民館 FAX | 40-1264 |

小3の53%が所持する 中3の72%が所持する スマホの実態!!

1月20日、島内子ども会育成会主催による講演会「子どもたちのケータイ・スマホの実態を知ろう」が開催されました。当日講演いただいた北野文彦松島中学校長に、携帯電話やスマートフォンと小中学生の現状等について伺いました。

◆最近、低年齢から携帯電話やスマホを使用、所有している印象ですが実態は？

「平成30年度松本市小学校・中学校電子メディア機器等に関するアンケート（市内小学3年生・中学3年生対象）」によると、自分で使用できるスマホを持っている（専用・共有）小学3年生は53%、中学3年生は72%という回答です。



▶現状を語る北野校長

また、スマホに触れる機会は、低年齢ほど増加傾向となる結果も出ています。

◆使用用途で多いのは？

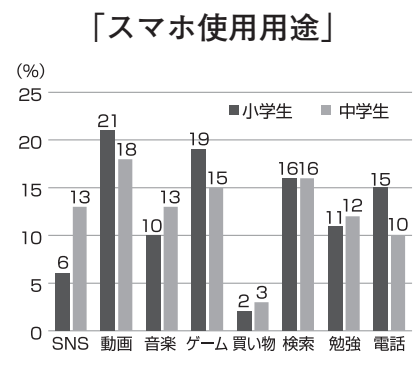
小学生は動画やゲーム、中学生は動画や検索が多くなっています。なお、SNSの使用割合を比較すると、中学生が倍以上となります。

◆一日の使用時間は？

平日は、平均で小学生が約1時間、中学生が約2時間となります。休日に3時間以上使用する小学生は27%、中学生は47%まで上がります。

◆子どもへの影響は？

小中学生とも使用時間が増加し続け、睡眠時間や勉強時間が減少しているようです。



また、中学生は学年が上がるにつれ、動画や写真の投稿が増加します。さらに「ネットで知り合った人に会った」と回答した児童もおり、親が承知していない人に、接触している可能性をうかがわれます。

◆注意すべきポイントは？

使用する子どもから「眠れない、朝起きられない」といった生活の乱れや「アダルトサイトへ勝手につながる、不審メールが届いた、ゲームで課金された」という使用上の不安などが寄せられています。一方、中学3年生の39%が家庭内で約束なく使用していると回答しています。自分で使用をセーブするのは難しいため、約束事を決めて使用方法を守ったり、未成年用のフィルターをかけたこと、親が常に気に掛けて使用を見守ることが重要です。

2/24 (日) 島内・島立 ふれ愛コンサート

島立小学校 brassバンド部や島内小学校合唱部、松島中学校と高綱中学校吹奏楽部合同の演奏、ハンドトゥハンドの皆さんによる優雅な車いすダンスが披露されました。最後に、大月裕夫さんの迫



力あるピアノ演奏があり、ドビュッシーの「月の光」など5曲のクラシック名曲にひたりました。

した。大月さんは生まれつきの全盲で、小学生の時に聴覚の異常が見つかり、現在中程



度の難聴ですが、県内で演奏活動を実施し、昨年7月には初めてとなるアルバムをリリースしています。

参加した60代男性は「車いすダンスを初めて拝見した。出演者とパートナーの踊る様子は、全員の表情がいきいきとした笑顔で、大変印象に残った」と話していました。

あなたも仲間になろう 花フレンド

公民館サークル「花フレンド」は、アレンジメントフラワーを学ぶ集まりで、第1火曜日午後7時から活動中です。

会員は9名で、25年続いたの長いサークルです。講師は、フラワーコーディネーターの田中沙恵子先生。いつも優しく丁寧に指導して

くださいます。昨年は、ハーバリウムやアロマワックスにも挑戦しました。共に活動する仲間を募集

しています。まずはお気軽にお声がけください。





4月30日で終わる「平成」。印象に残る言葉を並べてみると、消費税、バブル崩壊、週休2日制、異常気象、大地震、携帯電話、新世紀、リーマンショック、インターネット、IT革命、AI、働き方改革等々、自然環境も生活スタイルも大きく変化した時代でした。その中で、島内地区も変化してきました。そこで、平成の30年間の島内を公民館報の記事から振り返る企画を連載します。

人口の変化

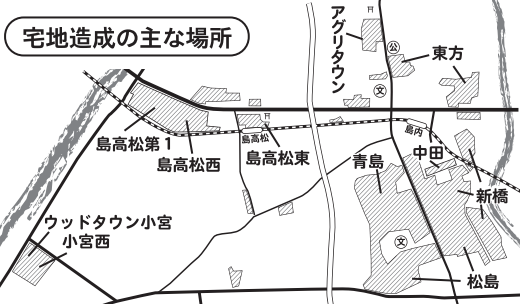
第1回 広がる宅地

島内地区は、平成元年人口9,705人 2,905世帯が、30年には12,747人 5,270世帯になりました。

島内地区内での宅地造成の主なものは、昭和54年の中田市住96戸の大型建設を始め、平成1〜2年の東方と島高松。平成5年のウッドタウン小宮・小宮西。15年の島高松。24年ころから現存も継続中の東方のアグリタウン他、松島。この春から入居が始まった新橋。他にも小規模の造成があり、市内35地区中7番目の人口を抱える要因になりました。

この新しい住民の地区内の存在は大きく、既に様々な活動の担い手となっています。

これからも緩やかに増加する宅地と、古くからの地域が混在する島内地区で、今後は、従来の地区行事や公民館活動の取り組み方を見直す必要がありそうです。



平成 島内での主要な出来事 統計起点/各年4月1日

| 年 | 出来事 | 人口 |
|-----|------------------------------------|---------|
| 元年 | | 9,705人 |
| 2年 | | 9,881人 |
| 3年 | 県営園地整備事業竣工 | 10,159人 |
| 4年 | (SKF開催) | 10,437人 |
| 5年 | WT小宮、小宮西の新町会誕生 | 10,853人 |
| 6年 | 松本トンネル開通 (松本サリン事件) | 11,312人 |
| 7年 | 島内デイサービスセンター・福祉ひろば完成 | 11,729人 |
| 8年 | 松本家畜保健衛生所竣工 | 11,859人 |
| 9年 | 島内公民館・出張所新築、農業文庫開設 | 12,017人 |
| 10年 | (長野オリンピック) | 12,173人 |
| 11年 | 新焼却プラント・ラーラ松本竣工 | 12,215人 |
| 12年 | 山田地区「一本松」完成、平瀬橋架け替え | 12,263人 |
| 13年 | 島内図書館開館、松本市公共下水道供用開始 | 12,446人 |
| 14年 | 島内体育館改築、JR大糸線梓川踏切立体交差化 (公立学校週5日制) | 12,444人 |
| 15年 | 島内福祉ひろば増築 | 12,329人 |
| 16年 | 梓川河川敷に島内マレットゴルフ場完成 | 12,288人 |
| 17年 | 小宮保育園改築、小宮子どもプラザ併設 | 12,423人 |
| 18年 | 島内地区子ども見守り隊発足 | 12,363人 |
| 19年 | アルプス大橋竣工、学南道歩道完成 (松本市制100周年) | 12,360人 |
| 20年 | 島内公民館内に河西部地域包括支援センター開設 (リーマンショック) | 12,292人 |
| 21年 | | 12,180人 |
| 22年 | 梓川SASスマートインター供用開始、西部コミュニティバス運行開始 | 12,136人 |
| 23年 | 松本で最大震度5強の中部地震 | 12,143人 |
| 24年 | セイコーエプソン島内事業所解体 | 12,174人 |
| 25年 | 島内児童センター竣工、JR島内駅舎改築 | 12,321人 |
| 26年 | 島内地区の世帯数が5千世帯を超える、平瀬城跡が市特別史跡に指定 | 12,419人 |
| 27年 | 東方に消防団第8分団詰所改築 | 12,479人 |
| 28年 | 上平瀬でまつもと歌舞伎関連「田んぼアート」開催 | 12,599人 |
| 29年 | ラーラ松本指定管理者に移行、奈良井川をきれいにする会環境大臣表彰受賞 | 12,697人 |
| 30年 | 音楽文化ホールでポジティブオルガン導入 | 12,747人 |

島内地区の人口推移 (平成元年～30年)

松本市公民館報 【島内版】 第193号

平成5年7月30日(金)

新町会発足

島内地区、新しい町会が二町会発足しました。二町会とは、島高松第1町会と島高松西町会です。島高松第1町会には、島高松第1町会と島高松東町会が合併して発足しました。島高松西町会には、島高松西町会と島高松東町会が合併して発足しました。

ウッドタウン小宮町会 平成5年7月号

松本市公民館報 【島内版】 第347号

平成17年9月30日(金)

ゆくもいのスタート

小宮保育園・小宮子どもプラザ

平成17年9月1日に小宮保育園と小宮子どもプラザが開業しました。小宮保育園は、島内地区初の保育園として、子育て世代のみなさんに安心して子どもを預けられる場所を提供します。小宮子どもプラザは、子育て世代のみなさんに、子育てに関する情報を提供し、交流の場を提供します。

小宮保育園改築子どもプラザ併設 平成17年9月号

松本市公民館報 【島内版】 第405号

平成27年5月30日(土)

伸びる島内 5000世帯を突破

島内地区人口・世帯数の推移

| 年 | 人口 | 世帯数 |
|------|--------|-------|
| 2000 | 10,000 | 3,000 |
| 10年 | 11,000 | 3,500 |
| 20年 | 12,000 | 4,000 |
| 27年 | 12,747 | 5,270 |

島内地区人口・世帯数の推移は、平成元年の9,705人口・2,905世帯から、平成27年5月1日現在の12,747人口・5,270世帯へと増加しています。これは、島内地区の人口・世帯数が5,000世帯を突破したことを示しています。

5000世帯突破 平成27年5月号